1. 澤田知子《ID400》（部分）1998年

県美プレミアム
収蔵品によるテーマ展

Out of Real

「リアル」からの創造／脱却

本展のみどころ

(1) 多様な作品群

・71 作家（ヨーロッパ、アメリカ、日本）の作品が展示されます（予定）。
・124 作品が展示されます（予定）。
・18 世紀～現在までに制作された作品です
（フランシスコ・ゴヤ《ロス・カプリチョス》1799 年が最も古い作品です）。
・版画、油彩、写真、彫刻、等、多岐に渡る素材・技法を用いた作品群が展示されます。

(2) 日本近現代美術の動向

・明治初期から現在までの日本の美術の移り変わりが展観されます。

(3) ユニークな作品の組み合わせ

・稀に見る作品の組み合わせ（同一空間での展示）が実現します。
—森村泰昌とフランシスコ・ゴヤ
—山崎つる子と澤田知子
—高松次郎と飯田操朗
等

(4)「リアル」の多様さ

・例えば英和辞典や国語辞典で調べてみると、「real」・「リアル」という言葉には多くの意味が記されています。こうした意味内容を示唆するような作品世界、作家の制作の様相が現れます。

県美プレミアム
特集
「Out of Real ―「リアル」からの創造／脱却」

開催趣旨

兵庫県立美術館では、9,000 点を超える収蔵作品を、1 年を 3 期に区切り、個々にテーマを設けて紹介しています。

2017 年度の第 1 期目のキーワードは「リアル」です。いつの時代も美術にとって関わりの深いこの言葉は、「本物のような」、「そっくり」、「写実的」という限定的な意味だけでなく、「現実、現実感、実体、認識、視覚」といった様々な概念をも意味、示唆してきました。

本展はこうした「リアル」の多様な意味内容を、「繋・関」、「変・語」、「転・現」、「虚・成」、「生・実」、「望・迫」という展覧会ならではの６つの造語を通して考えます。そして、「アウト・オブ」という「基にする・由来する」と「超える・離れる」という二重の意味を「リアル」に掛け合わせることによって、「〈現実〉を基点としつつ、超越する」という二重の意味こそが美術作品、作家の制作の本質ではないかと改めて問いかけ、美術や人間の創造力の魅力に迫ります。

2.　植松奎二《水平の場》1973 年

開催情報

会期：2017年4月1日（土）～6月25日（日）（展示替有、前期4月1日～5月14日、後期5月16日～6月25日）

休館日：月曜日

開館時間：午前10時－午後6時
（特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで）
※入場は閉館の30分前まで

観覧料金：一般：500（400）〈300〉円
大学生：400（300）〈240〉円
70歳以上：250（200）〈150〉円
高校生以下：無料
※（　）は団体料金（20名以上）
〈　〉は特別展セット割引料金
※障がいのある方は各観覧料金の半額になります（ただし70歳以上料金からの割引はありません）。
※障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料になります。
※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参ください。

※上記の観覧料金については3月の県議会の条例改正により正式に決定しますので、3月4日以降、当館ウェブサイトのプレスリリースでご確認ください。

会場：兵庫県立美術館　常設展示室

県美プレミアム

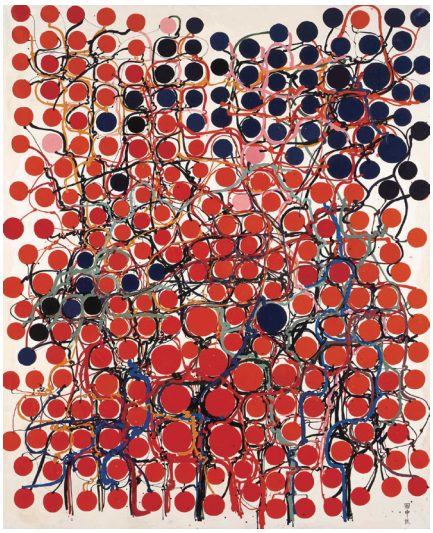
兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動を続けてきました。現在9,000点を超える作品を収蔵しており、それらはこれまでの収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されるとしても、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化に富んだ常設展示をおこなっています。

展示構成

1章 「繋・関～ Connect/Relate」 [常設展示室 1]

世界に存在する「かたち」は、常に変容し、拡張、増殖、そして消滅を繰り返しています。人はこの繰り返しの静と動のリズムを感じながら生きているといえます。本章は、こうした世界の構造に、自身の身体感覚や意識を、空間的、次元的につなげ、関わらせることで表現する作品によって構成します。

展示予定作家・点数：李禹煥、田中敦子、植松奎二、アルベルト・ジャコメッティ（前期）、アレクサンダー・アーキペンコ（後期）。5作家18点。



3. 田中敦子《作品》1958年
©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

2章 「変・語～ Change/Narrate」 [常設展示室 2]

人は往々にして他者の言動や出来事・現象に自らの意識を強く重ね合わせます。時に諷刺や皮肉や批判の精神を織り交ぜながら、またある時は自らを変貌させるというウィットに富んだ手法によって、それらの対象について「語り」ます。本章はこうしたテーマの作品によって構成します。

展示予定作家・点数：ジム・ダイン、フランシスコ・ゴヤ、森村泰昌。3作家19点。

4. フランシスコ・ゴヤ〈ロス・カプリーチョス〉より《祖父もこうだった》1799年

3章 「転・現～ Reverse/Appear」 [常設展示室 3]

知覚することや認識することは、造形表現の根底にある重要な出発点ですが、日常的に意識することの少ない「見ること」の背景には、多様な事象が影響しています。本章は物事を見る、捉えるという行為の本質を解体するかのような、「イメージの抽出」や「反転」をテーマとする作品群によって構成します。

展示予定作家・点数：澤田知子、吉村益信、コンスタンティン・ブランクーシ、山崎つる子。4作家8点。

5. 山崎つる子《作品》1963年

4章 「虚・成～ Void/Compose」 [常設展示室 3]

何もない。無である。平面や立体という「もの」として成立する造形表現にとって、「虚空」を表現することは禅問答のような永遠のテーマです。光や影、あるいは自らの意識下に現れるかたち。本章はそうした事象をかたちとして成立せしめる論理・哲学を追求してきた作品によって構成します。

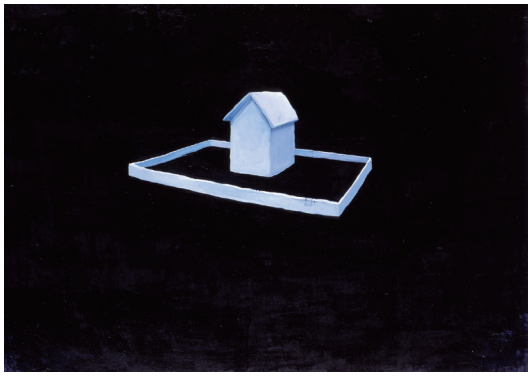
展示予定作家・点数：高松次郎、飯田操朗。2 作家 7 点。

6. 高松次郎《影＃394》1974-75 年
©The Estate of Jiro Takamatsu,
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

5章 「生・実～ Life/Work」 [常設展示室 4]

素材や制作のプロセスはひとつのかたちを生成するための重要な要素です。制作の只中に造形の基点を据えることは、自らの「生」と自己をとりまく対象とを呼吸するかのように重ね合わせることです。本章ではこうした世界観をテーマとする作品によって構成します（一部展示替あり）。

展示予定作家・点数：正木隆、ジャン・フォートリエ、荒木高子、岡本神草、森田子龍、舟越桂、他。6 作家 21 点。



7. 正木隆《造形 00-7》2000 年

6章 「望・迫～ Anticipate/Urge」 [常設展示室 6]

理想と現実。抽象と具体。「日本的」あるいは「西洋的」。日本の西洋近代主義の受容とは、こうした対概念を横断・逸脱しながら、表現のリアリティを獲得していった軌跡と言えます。素材・技法・主題のみならず、「望む」「迫る」という表現者と対象の関係をより具体的に示すキーワードによって見えてくるひとりひとりの「近代化」の意味を考えます（一部展示替あり）。

展示予定作家・点数：橋本関雪、中村不折、安井曽太郎、岸田劉生、吉原治良、他。前期後期合わせて 40 作家 40 点。

8. 浅原 清隆《海を見た》1937 年

関連イベント

(1) ミュージアムボランティアによるガイドツアー
会期中の金・土・日　13：00～（約 45 分）
エントランスに集合　参加無料（要観覧券・定員なし）

(2) 学芸員によるギャラリートーク
4 月 8 日（土）、5 月 13 日（土）、6 月 25 日（日）
いずれも 16：00～（約 60 分）。
料金：無料（要観覧券・定員なし）

(3) こどものイベント「私のリアルなわたし」
4 月 23 日（日）13：00～15：30
対象：小学生以上
要参加費、要申込（3/23 の朝 10 時より電話にて受付・先着順）
会場：アトリエ 2
申込・問い合わせ：078-262-0908

(4) 絵本をよもう
5 月 20 日（土）11：00～11：30
料金：無料（要観覧券・定員なし）
対象：どなたでも
本展に関連する絵本の読み聞かせを展示室で行います。

「美術館の日」

2002 年 4 月 6 日に兵庫県立美術館が開館したのを記念して、毎年 4 月に「美術館の日」を設けています。本年は 4 月 22 日（土）･23 日（日）に、多彩なイベントを開催します。

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平（1903－1988）は、近代洋画の代表的な画家のひとりです。確かなデッサンに裏打ちされた人物像は、今日もわたしたちを魅了させることでしょう。（16 点）

金山平三記念室

神戸生まれの金山平三（1883－1964）は、日本各地を旅して描いた風景画で知られています。季節の変化、土地の表情、そこに住まう人々の姿を繊細かつ情緒豊かに描きあげました。（18 点）

展示室 5　近・現代の彫刻／安藤忠雄コーナー

当館の豊富な彫刻コレクションから、近・現代の彫刻を選りすぐって展示します（11 点）。

また安藤忠雄コーナーでは、2002 年に阪神・淡路大震災からの「文化の復興」のシンボルとして開館した当館の、設計を担当した安藤忠雄建築研究所から寄贈された建築模型、資料類などにより、当館および近隣のプロジェクトを紹介しています。

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1-1[HAT神戸内]
TEL: 078-262-0901（代表）　FAX: 078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp

取材・写真提供に関すること
営業・広報グループ
TEL: 078-262-0905（グループ直通）　FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること
特集展示「Out of Real ―「リアル」からの創造／脱却」
担当学芸員：村田大輔、相良周作
e-mail: murata@artm.pref.hyogo.jp
いずれも、TEL: 078-262-0909（学芸直通）　FAX: 078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

【同時開催の展覧会】

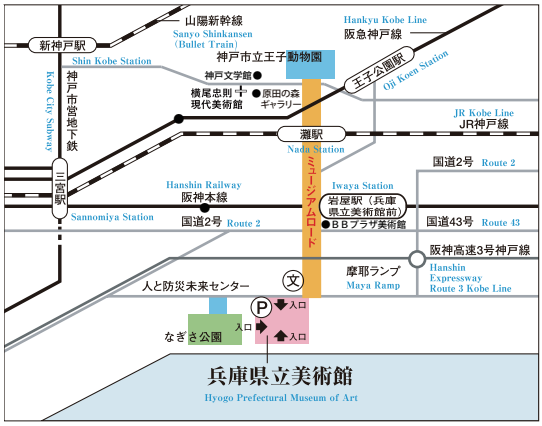
特別展
「新宮 晋の宇宙船」
3月18日（土）～5月7日（日）

特別展
「ベルギー奇想の系譜展　ボスからマグリット、ヤン・ファーブルまで」
5月20日（土）～7月9日（日）

横尾忠則現代美術館
開館5周年記念展　ヨコオ・ワールド・ツアー（仮称）
4月15日（土）～8月20日（日）

交通案内

阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から南に徒歩約8分
JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
JR三ノ宮駅から、阪神バス「HAT神戸行き」、神戸市バス「101系統」「29系統」にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ
地下駐車場／乗用車80台収容・有料
※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。
※団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。



広報画像申込書　　兵庫県立美術館

県美プレミアム　特集「Out of Real ―「リアル」からの創造／脱却」

2017 年 4 月 1 日（土）～6 月 25 日（日）

営業・広報グループ　宛　ＦＡＸ（０７８）２６２－０９０３ 電話（078）262－0905（直通）

ご希望の画像の番号に〇をつけてください。後日データ（.jpg）をお送りいたします。

番号	作家名・作品名・制作年　など
1	澤田知子《ID400》（部分）1998 年
2	植松奎二《水平の場》1973 年
3	田中敦子《作品》1958 年　©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association
4	フランシスコ・ゴヤ〈ロス・カプリーチョス〉より《祖父もこうだった》1799 年
5	山崎つる子《作品》1963 年
6	高松次郎《影＃394》1974-75 年 ©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
7	正木隆《造形 00-7》2000 年
8	浅原清隆《海を見た》1937 年

※上記作品画像を媒体掲載されるときには、記載の**作家名・作品名・制作年など**を必ず入れてください。
※作品画像は**全図で使用**してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。（会期終了まで）
※再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
※Web サイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
※基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で営業・広報グループまでお送り願います。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ　『　』 TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		ＦＡＸ	
メールアドレス	＠		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着 希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券（最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります）	組　　名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体（VTR/DVD）、URL などを、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いします。
※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材･撮影はお断りいたします。